

製造産業分科会の論点

- 我が国は、過去最大の貿易赤字が継続しており、昨年の経常収支は過去最少。これまで輸出の稼ぎ頭であった製造業は、海外生産移転が進んだこと等により、現下の円安下においても輸出が回復しにくい状況。
- 一方、足下では、円高是正を契機とした国内でのものづくりの再評価、生産拠点の国内回帰（リショアリング）の動きあり。こうした中、アジア等の成長市場をにらみ、グローバルな最適配置を目指しつつ、輸出や国内投資を拡大しようとする兆しあり。
- こうした兆しを確かなものにし、「経済の好循環」につなげていくためにも、製造業がその牽引役として競争力を高め、適切な国際分業の下で国内生産基盤の維持・強化を図っていくことが重要。こうした観点から、以下の取組みが必要ではないか。

1 国内生産基盤の維持・強化

- エネルギーコスト問題を含め6重苦の解消に取り組むことが引き続き重要。
- サプライチェーンの集積効果や国内雇用を確保していくためにも、高付加価値製品の生産を可能とする人材基盤、研究開発や知財標準化を含めた「ものづくり機能の高度化」を図っていくことが重要ではないか。
- 国内において、今後の需要拡大が期待される次世代自動車、国産航空機、再生医療、介護ロボット等の新市場を創出し、国内での高付加価値製品の生産につなげていくことが重要ではないか。

2 海外での収益力向上

- アジア等の成長市場に対応し、収益力を高めていくためにも、事業分野・工程によっては海外に進出。所得収支でも稼いでいく上で、海外展開により外需を取り込み、国富を稼ぐための企業と政府の役割は何か。
- 他方、海外進出した製造業において、現地収益確保とその国内還流に障壁が多いとの指摘があるところ、どのような対応が必要か。

3 製造業の収益力を高めるための体質強化

- まずは、今般成立した産業競争力強化法の着実な推進を通じて、事業再編など新陳代謝を促進することが重要。また、規制改革や基準作りを通じて新市場創出をどのように図っていくべきか。
- 企業の「稼ぐ力」を高めていくため、サービス提供との組み合わせ、知財・標準化戦略の駆使、デザインやブランド化など、事業の高付加価値化やビジネスモデルの改革をどう進めていくか。

4 人材育成

- 人口減少やグローバル化など構造変化に直面する中で、今後求められるのはどのような人材か。教育機関や企業が果たすべき役割は何か。
- 生産性を向上させる上で、人と装置との最適な機能分担の設計が重要。この点も含めた暗黙知のノウハウを形式知・組織知に変えていくことが、ものづくり機能の高度化につながるのではないか。また、そのための人材育成のあり方をどう考えるか。
- 特に、高付加価値製品を国内で生産していくために、企業内で人材をどのように育てていくべきか。また、政府の果たす役割は何か。

5 新たな「稼ぎ手」としての中堅・中小企業

- ドイツでは中堅・中小企業の輸出寄与が大きい。日本においても、グローバル・ニッチ・トップ（GNT）企業が新たな稼ぎ手となりつつある。海外市場獲得の上でどのような課題があるか。
- また、グローバル競争が激化し、従来の系列構造が変化する中で、中小・中堅企業は海外市場獲得に向けてどのようにして新たな活路を見出すべきか。

6 新たな技術への対応

- 3Dプリンターに代表される、製造プロセスのデジタル化が進展することで、産業や社会に大きな変化が起きる可能性あり。新たなものづくりの担い手の裾野をどのように広げていくか。
- 新たな市場創出の上で、ユーザニーズを踏まえた技術開発支援をどう進めていくべきか。また、炭素繊維や高機能化学など、新たな市場に伴い期待される機能素材産業をどう育成していくべきか。技術流出の防止にどう取り組むべきか。